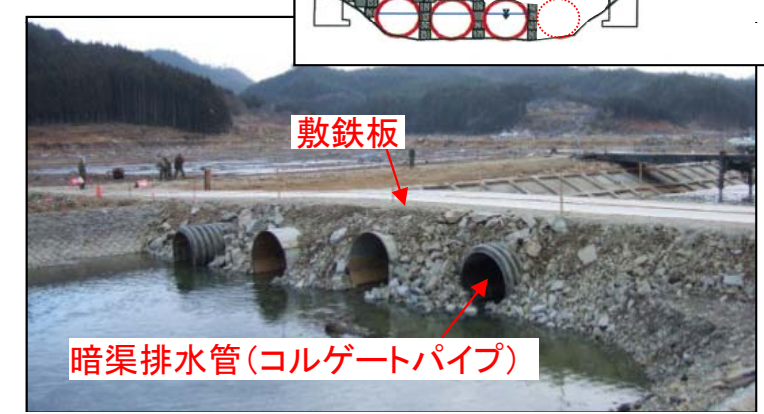
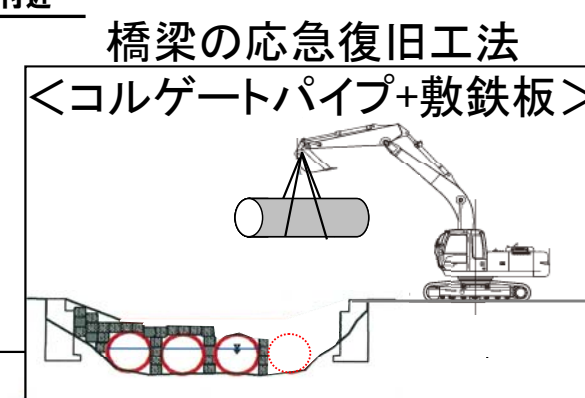
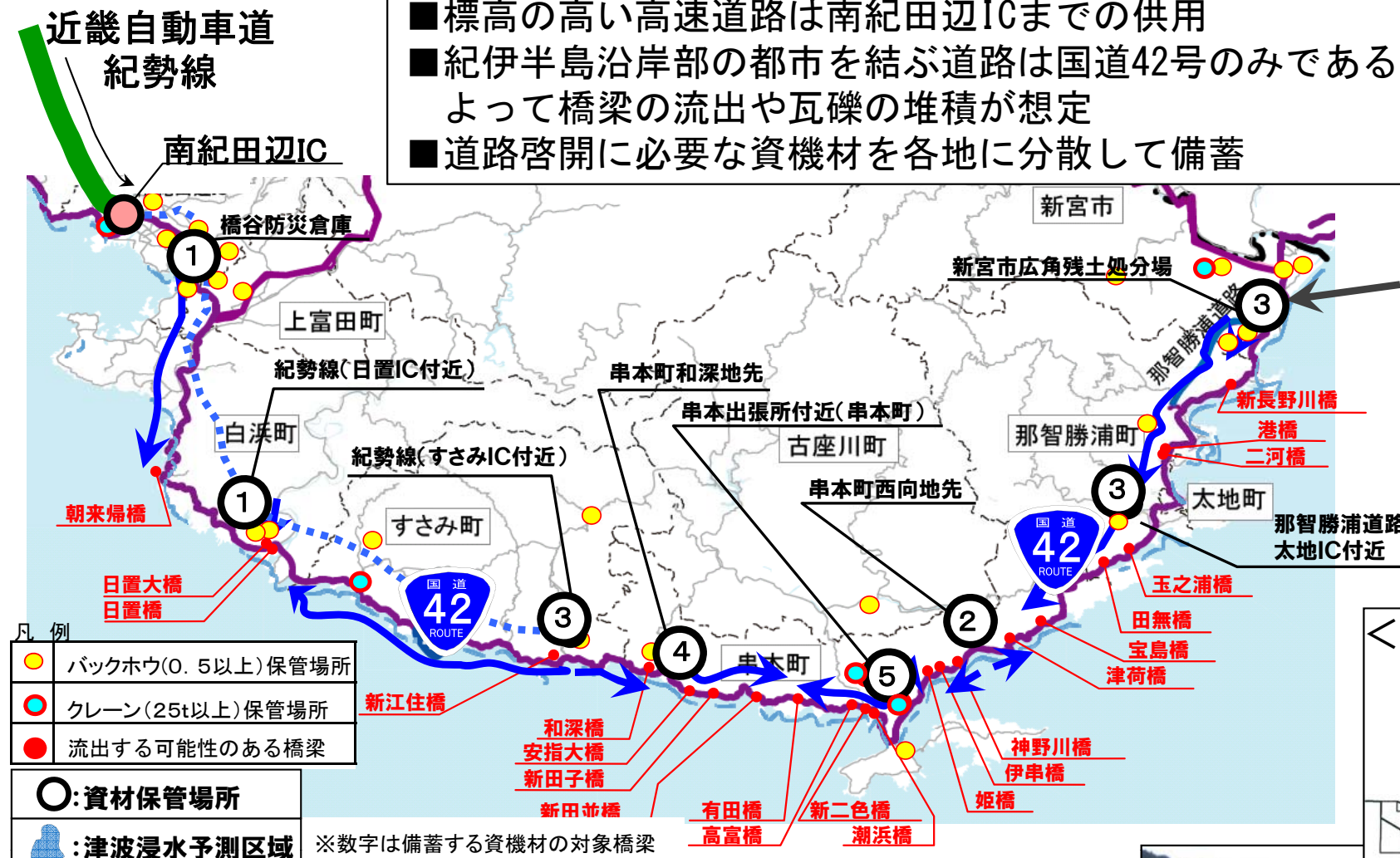


近畿地方整備局の南海トラフ巨大地震に対する 取り組み状況

大規模地震発生時の道路啓開オペレーション

- 標高の高い高速道路は南紀田辺ICまでの供用
- 紀伊半島沿岸部の都市を結ぶ道路は国道42号のみであるが、標高が低く津波によって橋梁の流出や瓦礫の堆積が想定
- 道路啓開に必要な資機材を各地に分散して備蓄



道路啓開資材配備状況

品目	全体計画	H24	H25	今後
暗渠排水管	230本	100本	130本	—
大型土のう袋	4,000袋	—	4,000袋	—
敷鉄板	1,900枚	—	—	1,900枚

広域陸路確保防災訓練～瓦礫撤去・仮橋設置訓練～

■各機関が連携して、津波による国道42号の橋梁流出や瓦礫堆積を想定した実践型訓練を実施

- 日 時 平成25年12月20日(金) 9時00分～
- 場 所 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町浜の宮(那智漁港)
- 主 催 近畿地方整備局、和歌山県、串本町、那智勝浦町
- 協 力 陸上自衛隊第3師団、自衛隊和歌山地方協力本部
新宮警察署、新宮地方建設業協同組合
- 訓練概要 南海トラフ巨大地震による津波により、瓦礫の堆積や橋梁が流出
・道路啓開、救命活動(陸上自衛隊第3師団、和歌山県、串本町、那智勝浦町)
・流出橋梁復旧(陸上自衛隊第3師団、近畿地方整備局)
・ヘリコプターからの映像の情報共有(全機関)

【訓練場所】



○道路啓開・救命活動



○暗渠排水管による橋梁復旧



○自走架設柱による橋梁復旧



南海トラフ巨大地震 近畿地方地域対策計画

- ◆ 平成25年度内を目途に、近畿地方を管轄区域とする国土交通省の地方支分局等の南海トラフ巨大地震に対する具体的かつ実践的な「応急活動計画」と「戦略的に推進する対策」について、第一次 とりまとめを予定

国土交通省南海トラフ巨大地震対策計画近畿地方地域対策計画策定連絡会

参加機関 策定機関：近畿地方整備局など 11機関
協力機関：陸上自衛隊第3師団など 104機関
アドバイザー 関西大学 河田教授

第1回連絡会 平成25年12月 6日（金） 18:30～
第2回連絡会 平成26年 1月30日（木） 18:30～
第3回連絡会 平成26年 2月24日（月） 13:00～

深刻な事態が想定される5項目

- ①紀伊半島沿岸部における津波
- ②大阪平野における津波
- ③密集市街地における家屋倒壊／火災
- ④公共交通等における重大な事故
- ⑤コンビナートにおける火災／油流出



津波発生時の避難活動支援

- ◆ 国道42号では、インターチェンジや切土した法面天端の空き地を避難場所に利用するため、避難階段・スロープを整備



避難階段



避難通路(スロープ)

※ 緊急時には簡単に壊せる扉を設置

沿岸部の津波浸水区域を中心に段階的に避難階段等を整備し、地域の避難活動を支援

国道42号 16箇所整備済み

減災に向けた情報提供

- ◆ 津波被害を軽減するため、標識柱などを利用して、海拔情報を道路利用者へ提供

海拔シート設置例



海拔シートの様式案



(串本市二色)

道路情報板を利用した情報提供イメージ



注) 情報掲載文は、写真にイメージのはめ込みをしています